

【現代語訳】 また言われたことには、念仏を申す素質は、生まれつきのままで申すのである。前生に自らがなした行為（の業）によって現生の身を受けたことであるから、現生では（その身の素質は）直し改めることができないのである。たとえていえば、女の人が男子になりたいと思っても、現生のうちには男子とならないことと同様である。智者は智者のまま申し、愚者は愚者のまま申し、慈悲ある者は慈悲あるままに申し、邪見をもつ者は邪見をもったままで申し、一切の人はみなこのように（念仏を）申すのである。そうだからこそ阿弥陀仏は、あらゆる方角に存在する生きとし生けるものよと言って、廣大無辺の誓願を立てられたのである。

【原文】 弥陀如来の本願の名号は、木こり・草かり・菜つみ・水くみの類（たぐい）ごとき者の、内外ともに闕（かけ）て、一文不通（いちもんふつう）なるが、「となふれば必ず生（うま）れなん」と信じて、真実に欣樂（ごんぎょう）して、つねに念仏を申すを最上の機とす。……まさにしるべし、聖道門の修行は、智慧を極（きわめ）て生死を離れ、浄土門の修行は、愚痴に返りて極楽に生ると。

（「信空上人伝説の詞」）

【現代語訳】 阿弥陀仏の誓願の名号は、木こり・草かり・菜つみ・水くみといった人々で、内面外見とも貧しく、一文字の読み書きすらできない者が、「（念仏を）称えれば必ず往生するに違いない」と信じて、真実に願って、つねに念仏を申すのを（往生するための）最もふさわしい素質をそなえた者とする。……まさに知るべきである、自己のはたらきを恃（たの）み現生に悟りをめざす聖者（しょうじゃ）の教えの修行は、智慧を極めて輪廻の境涯を離れ、浄土の教えの修行は、愚痴に返って極楽浄土に往生するのである、と。

### 悪人正機の教え（唯円『歎異抄』）

：現代語訳

「善人でさえも往生を遂げる、まして悪人はいうまでもない」。

けれども、世間の人がつねに言うことには「悪人でさえも往生する、ましてどうして善人が往生しないだろうか（いや、必ず往生する）」。（世間の人言う）このことは、いちおうその理由があるように見えるけれども、（阿弥陀仏の）誓願の趣旨に反している。なぜなら、自己のはたらきによって善行をなす人は、ひたすらに阿弥陀仏のはたらきを恃（たの）む心が欠けているので、阿弥陀仏の誓願にふさわしい対象ではない。しかし自己のはたらきを恃む心をひるがえ

して、阿弥陀仏のはたらきを恃み申し上げるならば、阿弥陀仏の誓願に対する報いとして開かれた真実の浄土への往生を遂げるのである。あらゆる煩惱を欠けるところなくそなえた私たちは、どんな修行によっても輪廻の境涯を離れることができないのを、あわれまれ誓願をおこされた本来の意図は、悪人成仏のためであるから、阿弥陀仏のはたらきを恃み申し上げる悪人が、まさしく往生の正しい原因なのである。

それゆえ（親鸞聖人（しょうにん）は）「善人でさえ往生するというのに、まして悪人はいうまでもない」と言われたのである。

### 悟りの世界（道元『正法眼蔵』）

：現代語訳

○仏道をなろうというのは、自己をなろうことである。自己をなろうというのは、自己（にかかわるとらわれ）を忘れることである。自己（にかかわるとらわれ）を忘れるというのは、万物の真実のありように触れて悟りが体得されることである。万物の真実のありように触れて悟りが体得されるというのは、自己の身心および他のあらゆる存在者の身心をとらわれから解放させる（真実のありように至らせる、悟りの体得に至らせる）ことである。

（『正法眼蔵』「現成公案（げんじょうこうあん）」）